

2017年、北海道の「食」と「観光」で「職」を



一般財団法人北海道開発協会会長

内田 和 男

明けましておめでとうございます。皆様には清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月に震度7を2回も記録し大きな被害をもたらした熊本地震とともに、私たち道民には、8月のかつて経験したことがない台風による大雨に次々に襲われた年との印象が強いと思います。8月豪雨による経済活動や私たちの日常生活への深刻な影響はなお継続しています。

また、海外に目を向けますと、イギリスのEU離脱、アメリカの政権交代、OPEC（石油輸出国機構）の8年ぶりの減産合意など、世界は日々大きく変化を続けています。グローバル化の中、極東の日本も世界の荒波に無縁でいられることはなく、その波及効果の速さは時間的猶予も与えてくれません。

地球環境や気候の変動、世界情勢の激変が続く中、北海道が世界の中でしっかり立ち位置を確保し、より豊かで安全・安心な社会を築いていくためには、すべての道民の力がが必要です。

国の第8期となる北海道総合開発計画を推進するにあたり、将来の北海道を中心となって担っていく人材をどれだけ育てていけるのかが問われています。人口減少時代にあって、北海道の価値創造力を強化するに

は「人」こそが資源とうたわれています。過去にとらわれず、柔軟で新鮮なものの見方・考え方ができる若者、経験を積み技術や知識を豊富に蓄えている高齢者、潜在力を持ちつつも発揮する機会が限られていた女性、社会の中で自らに合った役割を果たしたいと望む障がいを持つ人が、個性と能力を十分に活かすことのできる環境の整備や新たなライフスタイルが希求されています。

北海道の米、野菜、果物などの豊かな農産物、新鮮な海の幸は、私たちの強みです。インバウンド観光も交流人口の増加や、域外からの所得の稼得等地域経済への波及を拡大させます。北海道にとって戦略的産業である「食」と「観光」に、様々な人材をどのように「職」として結びつけていくのか、私たち道民の本気度が問われます。

北海道開発協会としてもさらに豊かな北海道の創出に向け、北海道の現在と将来をつなぐ調査研究、広報活動、研修会の開催など各種公益事業を、産官学民と連携しつつ積極的に実施していきます。

新しい年が、さらに豊かな北海道を創出し、皆様にとって幸多き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。